

令和5年度

授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 令和4年度「授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第6学年

令和5年9月
目黒区立不動小学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象児童数（本校）

	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
対象数	1 3 9 人	1 2 6 人	1 2 2 人	1 0 8 人	9 6 人
実施数	1 3 7 人	1 2 5 人	1 2 0 人	1 0 6 人	9 4 人
受検率	9 8 . 5 %	9 9 . 2 %	9 8 . 3 %	9 8 . 1 %	9 7 . 9 %

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 児童の学習に関する意識

2 年 意識調査、国語、算数

3 年 意識調査、国語、算数

4 年 意識調査、国語、算数、理科

5 年 意識調査、国語、算数、理科

6 年 意識調査、国語、算数、理科、社会、英語

(3) 実施日

令和5年4月13日（木）

II 令和4年度「授業改善プラン」の検証

(1) 成果

○基礎的・基本的な内容の確実な理解及び定着を目指して、学校全体で丁寧な指導を行ったことにより、全学年において各教科の正答率は、全国と同程度か上回ることができた。昨年度の「授業改善プラン」の成果が表れていると言える。

○各学級の授業改善プランを参考に、学年で指導者が児童の実態を確認し修正していくことで児童の実態に即した指導を行うことができた。さらに、この取組が指導者の授業の工夫や評価等の実践、指導力の向上に役立っていると言える。

○算数科においては、全学年「正答率」が全国平均値と比べて1ポイント以上上回る結果となった。これは個に応じた指導を充実させるために取り組んだ中・高学年の習熟度別学習においてきめ細かな指導を実践したことの成果と言える。

○国語科においては、第1学年を除き全学年で「正答率」が全国平均値を上回っている。特に「話すこと・聞くこと」の領域においては、どの学年も区平均・全国平均値を上回っている。これは授業改善プランに掲げた内容を確実に実施したことによる成果と言える。

(2) 課題

○国語科では、観点「主体的に学習に取り組む態度」において、課題が見られる。児童自らが、自己の理解度や到達度を振り返ることができるように、教師の発問を工夫することや、考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を単元や題材などのまとまりの中で設けるなど、授業改善を図る。また、国語科の授業だけでなく、他教科等や日常生活における環境を整備することが重要である。

○算数科では、学年が上がるにつれて正答率のポイントが区平均と変わらないまたは下回る結果となった。日々の基礎・基本の積み重ねが大切である。特に、データを活用し、統計的に問題解決する力に課題が見られる。身の回りの事象を表やグラフに表して整理し、問題解決に生かす力、データを多面的に把握し、事象を批判的に考察する力等の育成を図ることが肝要である。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

＜本校の授業改善に向けた方策＞

以下の4つの方策を全学年共通で実施する。また、9月以降実施する学習単元において、区学力調査の結果などから見られる各学年の課題に関連した単元を重点指導単元とする。

(1) 指導内容・指導方法の工夫

- ・毎週火・木曜日の20分間の短時間学習「不動タイム」において、基礎・基本となる学習内容の習熟を図るとともに、対話力を高める活動を行う。
- ・ワークシートや学習カード、ノート指導等の工夫を図り、言語活動のさらなる充実を目指す。さらに、学習用情報端末を効果的に活用し授業改善に取り組み、学習内容への関心を高めたり、学習課題への理解を深めたりし、学習の目標に迫る授業を実践する。

(2) 指導体制の工夫

- ・個に応じた指導を充実させるために、算数科において、低学年では、学習指導員、家庭科専科教諭と連携を図り、チーム・ティーチング指導を積極的に行う。中・高学年では、習熟度別指導を通して、問題解決学習を意識した授業を展開し、児童の理解力に応じたきめ細かな指導を行う。

(3) 研修の工夫

- ・学力調査結果に表れている児童の学力に関する成果と課題を共通理解し、学校全体で組織的に授業改善に取り組む。授業参観を行い、授業改善ができるようにアドバイスを相互に行う。
- ・OJT研修を計画的に行い、教員の指導力の向上を図る。

(4) その他

- ・授業改善プランの実施状況について、12月に各学年で評価し、計画の修正を行う。さらに、学習指導要領に合わせて本校で作成した評価規準一覧表に基づき、一時間一時間の授業を振り返りながら、指導と評価の一体化を図る。
- ・基本的な生活習慣や家庭学習を充実させるため、都や区の意識調査の結果を活用し、個人面談や保護者会を通じて、家庭との連携を図る。